

〔大島特産園芸作物における生産振興技術対策〕
ヨツモンカメノコハムシの発生と被害状況および防除対策

竹内浩二・嶋田竜太郎・沼田洋子*・沼沢健一*²・嶋田 綾*³
(島しょセ大島・*同三宅・*²防除所・*³大島支庁)

【要 約】 関東では未発生であったヨツモンカメノコハムシの発生と被害を大島，三宅島で確認した。サツマイモおよびノアサガオで幼虫，成虫による食葉被害があり，大島では既に全域に分布している。登録薬剤であるスミチオン乳剤の効果は高かった。

【目 的】

ヨツモンカメノコハムシは沖縄本島以南，中国南部，台湾，インドなど熱帯～亜熱帯に分布するサツマイモの重要害虫である。近年，日本では北に分布域を拡大しており，1999年以降九州各地に発生し，現在は全域に分布，08年には静岡県東部のサツマイモでも発生が確認された。ここでは，本種の伊豆諸島での発生状況を明らかにして情報提供を行い，防除対策を講じる。

【方 法】

1. 発生状況調査：サツマイモを中心に生産圃場等を巡回調査などで定期または不定期に害虫の発生状況を調査する。
2. 薬剤効果確認：唯一の登録薬剤であるスミチオン乳剤の本種成虫，幼虫に対する効果を見るため，8月15日に露地サツマイモ圃場において規定濃度で処理し，7日後まで寄生数を調査した（表1）。

【成果の概要】

1. 2012年6月1日，東京都大島町北部のサツマイモ圃場において成虫および幼虫の発生と食葉被害を確認した。その後，巡回調査などで発生を認めた地域は泉津，岡田，元町，北の山，差木地，波浮などで，既に島内全域で発生していることが明らかとなった。一部の圃場では多発生状態で，食害被害は大きかった。
2. 三宅村のサツマイモ圃場において，7月11日に幼虫の発生と食葉被害を確認した。その後，巡回調査などを行い，発生は一部を除いて低密度ではあるものの，ほぼ全域でサツマイモ葉の被害を確認した。また，一部圃場周辺のノアサガオで多発していた。
3. 大島では全域でサツマイモおよびノアサガオで卵，幼虫，成虫の発生と被害を確認した（図1～3）。幼虫，成虫が展開葉を主に葉裏から食害することにより数mm～1cm程の円形～不定形の食害痕が残された。葉脈のみを残した，激しい食害を受けた葉も散見された。
4. 本種の成虫および幼虫に対して，スミチオン乳剤は高い効果が認められた（表1）。
5. まとめ：ヨツモンカメノコハムシの発生と被害を大島，三宅島で確認した。サツマイモおよびノアサガオで幼虫，成虫による食葉被害があり，一部圃場では多発状態である。
6. 留意点：近年，サツマイモの害虫の分布拡大例が多いことから，苗等の移入，移出時には注意するよう普及センターとともに注意を喚起している。なお，本内容の一部は病害虫防除所から10月23日に病害虫発生予察特殊報として発表されている。

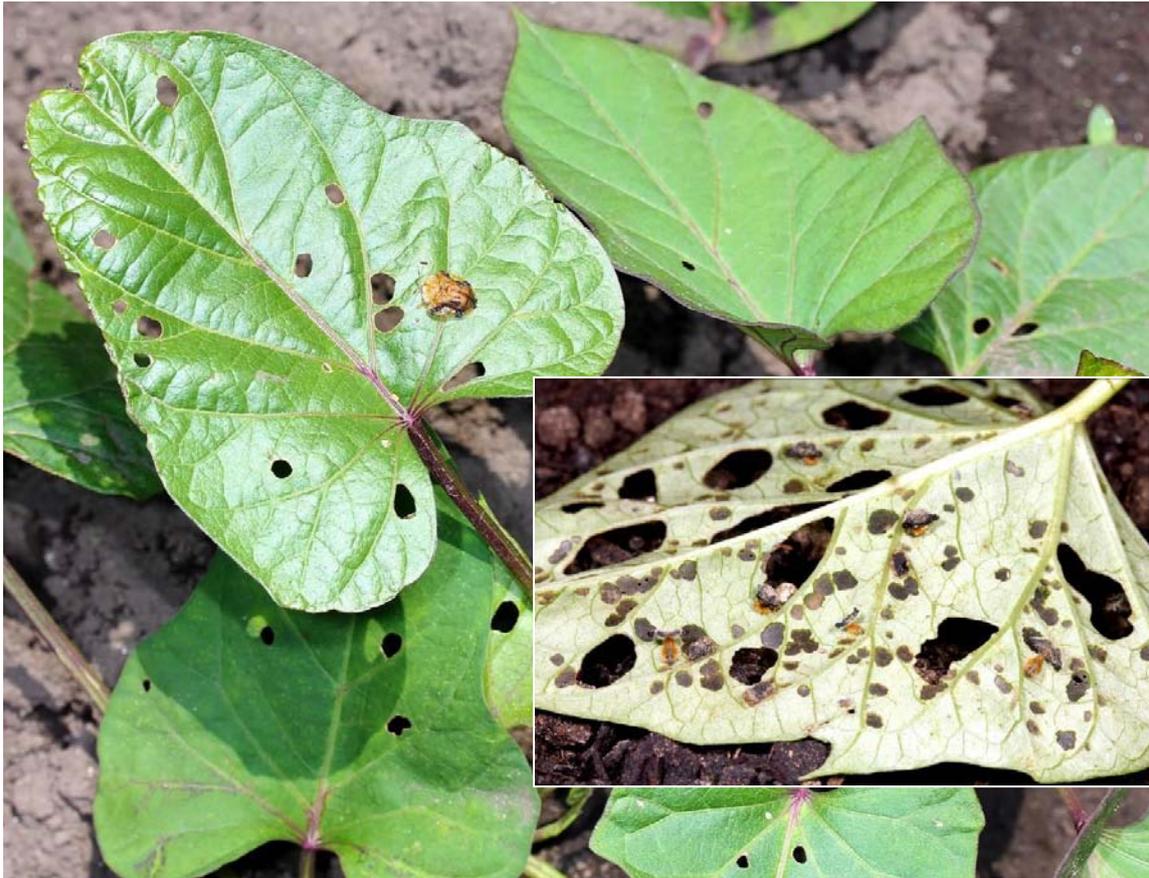


図1 サツマイモ葉の被害と成虫（図中右は葉裏の幼虫と食害痕）



図2 成虫



図3 若齢幼虫と孵化後の卵膜

表1 サツマイモにおけるヨツモンカメノコハムシ寄生数の推移

供試薬剤	希釈倍率	反復	各区6株当たり寄生数									補正密度指数 ^a		葉害
			処理前			3日後			7日後			3日後	7日後	
			幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計			
スミチオン乳剤 ^b	1,000倍	I	13	3	16	0	2	2	0	2	2	7.8	8.3	-
		II	12	3	15	0	0	0	0	1	1			
		平均	12.5	3.0	15.5	0.0	1.0	1.0	0.0	1.5	1.5			
無処理区		I	17	3	20	16	4	20	18	4	22	100	100	-
		II	11	4	15	6	3	9	14	5	19			
		平均	14.0	3.5	17.5	11.0	3.5	14.5	16.0	4.5	20.5			

a) 各調査日における幼虫と成虫数を合計した平均から算出

b) サツマイモでヨツモンカメノコハムシ, アブラムシ類, イモコガに対する登録(1,000倍, 収穫7日前まで5回以内)